

第1回立川競輪事業の将来像（2020年版）検討委員会 議事要旨

○日 時：令和元年8月28日（水） 14：00～16：00

○場 所：立川競輪場 会議室

○出席者：大平委員長、矢ノ口副委員長、澤田委員、渡貴委員、齋藤委員、下河辺委員、遠藤委員、藤田委員、竹内委員

※傍聴者：なし

事務局：（議事進行にあたっての注意事項、委員長の選任）

委員長：各委員、特に立川競輪場の周辺地域を代表として委員に就任いただいた周辺対策協議会会長の竹内委員に御礼申し上げます。立川競輪場では安定した事業運営のために立川競輪事業の将来像2014年版を作成し、その施策を進めてきた。この将来像は5年スパンの計画であり、2014年版の計画期間到来に伴い、既存計画の検証および現状分析を通じ、委員各位より意見をいただきながら、次期計画である2020年版をこの委員会で策定していきたい。競輪事業は継続して安定した収益を確保し、一般会計への繰出しを継続することが使命であると考えている。今日は細かい数字の話がメインとなるもので、ぜひ闊達な議論をお願いしたい。次第に沿って事務局より説明願う。

事務局：（資料確認、机上配布資料の確認、差し替え資料の説明、資料修正のお詫び）

（立川競輪事業の将来像の策定経過の説明）

今回2020年版も前回(2014年版)の“将来像”の取組事項を検証し、競輪事業を取巻く環境を分析した上で、持続可能な競輪事業を行うための検討を行うものである。

（資料1～3の説明）

委員長：説明で分かりづらい部分があったと思うが、前回(2014年版)の“将来像”で取り組み事項や収支改善策を挙げており、その対比として実際にこのような施策を実施し効果があったのかを今回の資料で検証している。対比の見方を説明させていただいた上で、皆様よりご意見等はいかがか。

G委員：資料2のネーミングライツについて、これまでのところ実施に至らなかったが、今回の将来像で同じような提案がでてくるのか。

事務局：可能性はあるが、開催日数の関係でなかなか参入する会社がおらず、提案として挙げたところで採用されるか不明。

G委員：他の提案で実施に至らなかったものは、理由が表せるものなのか？実現性は？

事務局：当時の業者提案で、実際に実現できるものとできないものがあった。

委員長：委員の発言は、実施できないことの理由を明確にできるならしてほしいという意図と思われる。

G委員：そのとおり。

委員長：今回は施策の提案がある予定で、委員からも提案いただきたい。必要な実施施策については事務局として計画に再計上するという方向性か？ただ、実態と合わないものは、この場で協議していくのか。

事務局：お客様ニーズや業界の動向等をふまえて継続する施策かどうかを取捨選択していきたい。

E委員：資料2で検証はしているが、当該部分は進捗管理するアクションプランではない、という理解でよいのか？

事務局：よい。

E委員：アクションプランを立てるまでではないが、収支改善に資するものとして幅広くアイデアを拾ったもの、という理解か？

事務局：2020年版に向けてお客様アンケートや事業者ヒアリングをするので、その中で提案のあった施

策は、拾えるものは拾っていこうと思う。

委員長：進捗管理までするか否かは別として、以前の施策の再掲はありうる。

F委員：事業者提案からアクションプランに至るか否かの経緯はどのようなものであったのか？

事務局：5年間で実行できるものを本体に掲載し、それ以外のものを事業者提案という形にしたものと思われる。

委員長：2014年版では18ページが本文、33ページ以降は資料という扱いだと思われる。どう取舍選択したのかは、事務局の説明の通り。

D委員：「将来像」という冊子であるが、収支に特化している。立川市として競輪事業をどういう方向性に導くのか、施設改修は今後どうするのか、基金も従事員の退職金見合いで積んだものをどうするのか、というものでないと本当の「将来像」とは言えないと思う。

事務局：2014版は収支に特化していたが、次の構成案で説明するように、基金や施設改修等も目次に入る予定なので、施設の在り方など全体の検討を含めて、どのように今回の将来像に落とし込めるかを議論していきたい。

委員長：将来に向けた展望をしっかりと書いていきたい。

H委員：グループ席の記載があるが、これは部屋の稼働率か？

事務局：そのとおり。

H委員：実態としては当初の計画通り女性ファンの獲得につながっているのか？

事務局：ロイヤルに入りきれなかったお客様が使っている。男性客が多いのが現状。

委員長：検証の書き方についてどう思うか？

F委員：「完了」と書いた後に「改善」と書いているのはどうかと思う。一旦完了した施策をさらに進めた、という意味と思うが、他の計画等では「充実」という言葉と思われる。または「その後の経過」でも良いと思われる。

委員長：数値の表記の仕方はどうか？

F委員：全部が平成25年度比という書き方なのか。

委員長：全部ではなく、2014年度版の記載で目標とした数値との比較としている。

H委員：「検証」という語が使われているが、記載内容からは何をどのように「検証」したのかが分からない。「改善」と「検証」の言葉の使い分けが不明。

事務局：指摘のとおり表記について事務局で検討したい。

F委員：数値なり経過が示されれば「完了」や「改善」といった語は特に記載しなくていいと思う。

事務局：これらの言葉を削除する方向で検討したい。

E委員：実績検証の上ではグランプリの有無が大きな事象と思う。当初の計画では計画期間中のグランプリ開催は想定しておらず、実際にグランプリ開催したことによる影響度合いの評価として、項目によっては下駄をはかせているのか、そうでないかなど留意点はあるのだろうか。

事務局：経費削減の部分では考慮すべきものもあり、必要な注釈やコメントを検討したい。

委員長：グランプリの開催は収入は増えるので収益に直結するが、経費の中には増えるものや、水道光熱費のようにそれほど変わらないものもある。「特別競輪の誘致」を新しい施策として提起することが本来は必要であったと思われ、次の施策の提案の中で整理する必要があると思われる。

A委員：文言と数値の実態が違うわけではなく、書き方の問題と思う。

H委員：削減率ではなく削減比率の言葉の意味がわからない。平成25年度と比べたという意味か？

事務局：そうである。

H委員：5年間の経年ではなく単年度ごとに平成25年度と比較したという意味か？だとすると、5年間で結局どれだけ減っているのかが分からない。

事務局：単年度ごとに平成25年度と比較したという意味である。

委員長：他の意見はいかがか、なければ先に進めさせていただきたい。

事務局：（資料4の説明）

委員長：（資料4の補足説明）今まで記載のなかった一般会計への繰出しや基金も数値として示し、施設改修やプロモーション施策についてもきちんと整理していきたい、現段階ではこのような構成を考えている。

D委員：本来的な市としての方向性という意味での「将来像」の書き込みは難しいと思う。やはり収支の改善策という方向に落ち着きそう。しかし、極論かもしれないが、本来「将来像」としてあるべきなのは、市として競輪事業をどのようにしていくのか、基金の扱いをどのようにしていくか、ということであったのではないかと思われる。

事務局：短期的な話としては、収支改善を目指さなければ一般会計への繰出しがままならない現状があり、今回版もそうなると思う。

委員長：将来像という文字と中身にギャップはあるということだと思う。前回(2014年版)の“将来像”でも議会で指摘があり、整理が必要と思うが、事務局としてはどうか？

事務局：指摘のとおりで、次回の審議に向けては、議論に乗せたいと思う。

委員長：この件は前書きで整理すべきと思う。

F委員：目標としていくら積むために何をするのか、何を指すためにどういう施策で対応するのか、というつくりになると思う。

委員長：体系的なものを示す、という意味でいいのか？

F委員：先程資料にあった「市民に愛される競輪場、安定的な事業収益を確保できる競輪場、防災機能を強化した競輪場」のために計画づくりを進めるということか？

委員長：それはあくまで施設整備の方向性である。

D委員：本来の意味での「将来像」は理事者なり皆さんの思いがあって、単期的収支ということであれば、前回同様の指摘をされるのでは？

事務局：長期計画の中では「持続可能な財政運営の推進」と挙げられているので、持続可能な競輪事業に向けての計画として整理したい。

委員長：中身というより受け取り方の問題と思うので、タイトルと書きぶりは部内で整理したい。ここでは収支改善のための経営分析という位置付けでご理解いただきたい。2014年版の計画でも「はじめに」では一応書いてあるが、やはり議会で指摘を受けた。

H委員：誰のためのという位置付けでこの本が出されているかがあやふやなので指摘されたのだと思うが、そもそも事業として持続させるための視点でまとめた、という説明をきちんとしないといけないと思う。

委員長：繰出した額をどうするかは一般会計で考えることであり、繰出す側としては、その策を考える、という整理でいたい。

D委員：例えば「安定的な競輪事業運営について」などの副題をつけてはどうか。

委員長：いろんな知恵があると思われるが、この委員会では安定した事業運営をするための冊子である、という共通認識で進めたい。また、立て付けについてご意見があれば、後程お受けしたい。では事務局より引き続き残りの資料説明を。

事務局：（資料5～7の説明）

委員長：事務局からの説明を再度整理させていただきたい（資料と2014年版を対比する見方を説明）。前回(2014年版)の“将来像”調査報告と決算額の対比については、数字の転記などは再度チェックするが、変化するものではない。その上で現状をベースに今後の収支予測をすると、このような

結果になるということである。

H委員：資料4の7ページ、単位は百万円か？

事務局：記載が抜けていた。

委員長：今回の説明で注目すべきは資料4の10ページ。何もしないと今後はこのような収支になる、というものである。繰出金については、今後の予測を出す、ということでもいいのか。

事務局：今後この議論をふまえて、後期計画の財政収支にどう反映するか、ということになると思うので、一般会計への繰出しと基金の割合を、将来像による収支改善予測の後に相談していくことになると思う。

E委員：何に使うからいくら出す、ということではなく、収益体質を改善していったって、施設改善や経営体質の改善具合をみて、内部留保を見極めて、いくら繰出せるのかがわかると思う。繰出したのをどう使うのかは一般会計側の話だと思うので、そういう議論でいいと思う。

委員長：方向性としてはそのようにしたい。

E委員：前回(2014年版)の“将来像”の予測に対して収益が想定通りであったのか、上がったのか、どういう評価をしているのか。

事務局：評価の視点で言うと、資料に記載のとおり、収益構造は改善しており、予測を上回る収益をあげていると言える。

E委員：その要因分析として、経費が下がったのか、売上が減らなかったのか、どのようなものか？

事務局：経費の削減を徹底的に行ったのが1点、もう1点はミッドナイトやグランプリの開催が収益の改善に寄与したと思われる。

E委員：前回(2014年版)の“将来像”にくらべて、今回検証で最終年度の収益が上がっているのは、車券発売は右肩下がりながら、収益構造が改善している、という理解でいいのか？

事務局：収益構造が改善されたことで、前回(2014年版)の“将来像”の収支予測を上回った収益を確保できたものである。

委員長：ストーリーとして、まず前回(2014年版)の“将来像”の施策の検証では、歳出の削減を進めた結果として予想を上回る収支決算となったが、今後このままでは予測したような収支になるので、改善策を検討していく、ということである。

E委員：特別競輪は考慮していない、という予測なのか？

事務局：そのとおり。

C委員：今後の予測では電話投票は下がっていく見込みのようだが、立川ではなく全体の傾向としては電話投票は伸びていくような趨勢であると思われるが？

事務局：ここで言う電話投票は「CTC」であり、民間ポータル分は場外に計上している。分かりづらい表記は改善したい。

委員長：立川競輪場はナイター開催をしていない。ナイター開催場では電話投票やインターネット投票が伸びてくるので、それも、この数値が延びきれていない要因と思われる。

H委員：受託事業収入が伸びているが、この受託事業収入とは何か？

事務局：立川が持つ5つの管理サテライトの管理施行手数料等ある。

H委員：何が増えているから伸びているのか？

事務局：インターネット事業者の売上の伸びに連動した管理施行手数料の伸びである。2018年4月から2019年2月までの状況で、前年度比137%の伸びである。

D委員：恐ろしいと思うのは、平成26年度から30年度までの4年間に本場の車券売上げはほぼ半減している。今後の予測でもその傾向を踏襲していて、このままいくと本場の存在意義が問われるというか、深刻だと思う。

事務局：確かにそのとおりだが、本場ならではの魅力や来場しなければ得ることのできない魅力というのが大事な視点になると思うので、この部分を立川競輪場の強みとして、施策として打ち出せれば、車券売上額の向上、ひいては経営の安定化につながると考えている。

委員長：数字の中から見えてくるものもある。例えば買い物もネットで買っていて、実店舗側が疲弊している、ということが地域社会でも起きている。施設改修をどう打つのか、コンパクトにして経費を削減するのかどのように集約させていくのか、ネットをどう伸ばしていくのか。立川はナイターをやっていないのでネットの伸びは大きくないので今後どうしていくのか、といったことは施策として見えてきている状況ではある。実態として経営環境はかなり厳しい。結果として収益金は前回(2014年版)の“将来像”での予測の倍以上となっているが、常に新たな施策を打って動いていかなければならない。これらのことを踏まえれば、「将来像」というより、経営分析をしてしっかり収益をあげていこう、ということだと思う。

B委員：これまでに収支改善策としてかなり経費を削減していて、これ以上の削減は厳しいと思うので、そのための対応策を考えたい、というのが趣旨だと思う。私たちは競技運営を主としているので、言いたいのは、現場にお客様が少ないという現状は認識していて、現場へのお客様回帰のため、開催主として立川市のカラーをハッキリ出して貰うと、私たちも協力させてもらいや少なくなるので、皆で知恵を絞って、結果として良い方向に導ければいいと思う。

E委員：現状ではスリム化されて収益改善している中で、工夫や新たな取り組みが必要だとすると、それに対する新たな資本の投下が発生する訳で、この収支見込の中ではどの程度見込んでいるのか？現状の箱、現状の仕組みのままでの収益予測なのか、必要な工夫のための投資を支出側で見込んだ収益予測なのか？

事務局：あくまでの現状の箱のままで予測している。その中でどれだけソフト的な面での工夫ができるかどうか、ということだと思う。

E委員：ソフトといっても費用がかかる部分もあると思われる。施設改修的な面でのハード整備もあるかもしれない。例えばスマートフォンを用いた新しい投票システムができたので、そこにお金をかけなければならない、など、施策強化の面で初期投資が発生するものがあると思うが、そのような一時的な経費増についてはこの場で議論していく、ということか？

事務局：スマートフォンを用いた新しい投票システムに対応する投票機器の更新などの場合、業界のシステムの変更を伴うので、それに合わせなければならない面もありつつ、立川競輪自体での投票機器のリプレイスについては、ここで掲げた収支見込以外の投資が発生する場合もある。

委員長：そのあたりまで書き込むかどうかは、一旦整理したい。

E委員：そうすると安定的な経営確保のためには、収益は上がるが、収益のうちいくらかはそういったものに割り振るべき、という優先順位があったとすると、結果として一般会計への繰出しも、収益は出ているが、これだけ持っていかれては困る、という話にもなると思う。

事務局：今後の投資的な部分はある程度スパンを見込んで計画的に進めなければいけないが、その投資対効果を見て施策を打ちつつ、一般会計への繰出し予測を見せていきたいと思う。

委員長：他の質問がなければ、時間も迫っているので、次第を先に進めたい。

事務局：(資料8の説明) アンケートでは前回(2014年版)の“将来像”と経年で比較できる項目と、新たな項目を入れた設問を検討してる。

H委員：参考までに設問を見せってもらうことは可能か？

事務局：修正なり、何か説問を追加したいということか？

H委員：そうではない。設問を見たい意図は、前回(2014年版)の“将来像”のアンケート結果で気になった点があるから。来場者の殆どが男性で、「女性は夫に連れられて来場する」という記載があった。

聞き方として、今日は「夫」と来ているのか「恋人」と来ているのか「きょうだい」で来ているのか、聞き込んだ結果でこういう表記となったのか、本人が「夫に連れられて仕方なく来た」と答えた人だけだったから、そのままを書いたのか。そもそも女性の主体性とか女性ファンを否定していないか？だとすれば何故、女性ファンのためにロイヤルのような部屋を作ったのか、矛盾を感じる。本当に女性ファンがどれだけいるのかも気になるところだが、この記載が本当なら、連れられて仕方なく来た女性がどうしたら楽しめるかを聞いて欲しい。的確な聞き方をしてもらえれば。女性ファンを増やす狙いがあるなら、別途少ない属性ということで、女性向けの質問を加えて貰えればよいと思う。

事務局：反映していきたい。

委員長：恐らくもらった声をそのまま載せてしまったのだと思う。その辺をふまえてアンケートが整理できたら事前に配布したい。

F委員：電話投票の話があったが、その利用者は来場者と兼ねているのか、電話投票だけをしている人にアンケートしなくていいのか。

事務局：事業者へのヒアリングを委託に含んでおり、委託先が民間ポータルサイトであることもあり、その事業者が利用者向けにしたアンケートの結果をヒアリングする。

A委員：前回検討委員会では若手ワーキンググループがあったが、今回は？

事務局：要綱上の規定はあるが、今回の策定方針ではお客様アンケートと事業者ヒアリングを行い、進めていきたい。

A委員：事前資料によると、高収益の競輪場はほとんど九州地区にあり、そのあたりにヒントがあるのでは？

事務局：九州地区ではナイターやミッドナイト競輪の開催が多く、その収益が反映されていると思われる。

委員長：前橋競輪場や平塚競輪場でも収益が多いのは、ミッドナイトや特別競輪開催の影響であり、立川はそれらが無い中で収益が高い。

委員長：他に質問などなければ、今後について事務局より説明願う。

事務局：（机上配布のスケジュール案を説明）

委員長：次の日程を決めたい。

※調整の結果、次回は10月15日（火） 10：00～12：00で開催することとする。

委員長：スケジュール感はこれで良いか？他に事務局からの伝達事項はないか？今回の計画策定では、先ほどの立て付けの通り、まずは前回(2014年版)の“将来像”の内容をきちんと検証して、その結果どのようになるのかが見えてくるので、そこから次に為すべき施策を整理して、という立て付けの共有がこの場でできていれば、有難いと思う。また、表題と中身の乖離については、次回までに我々の考え方を整理していきたい。最終的には安定した収益を確保するための経営分析である、ということ共有したい。次回は政策的なものをかなり打ち出していくので、事前に送付できる資料は送付させていただく。全体的に何かあるか、なければ一回目はこれで閉会としたい。